

近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所
資料配布

配布日時	平成24年6月11日 14時00分
------	----------------------

件名	猿谷ダムの貯水位の下げ幅を拡大 試行運用を開始 ～空き容量を約400万m ³ から約900万m ³ に増強～
----	---

概要	<p>猿谷ダムは、今年の台風12号による被害を踏まえ、洪水時の放流量を低減するため、貯水位を下げて空き容量を確保します。</p> <p>この操作は、これまで台風による大きな洪水が発生している9月1日から10月31日の間、1000m³/sを超える洪水が予想される場合において、標高426mを目標に事前に貯水位を下げる運用を行います。</p> <p>これにより、満水位標高からの水位低下を従前の4mから10mに下げ、ダムの空き容量を約400万m³から約900万m³に増強します。</p>
----	--

取扱い	-
-----	---

配布場所	近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、奈良県政記者クラブ、五條市政記者クラブ
------	--

問合せ先	国土交通省近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所 副所長 河南 良男 電話 0747-25-3013(代表)
------	---

猿谷ダムの貯水位の下げ幅を拡大 ～空き容量を約400万m³から約900万m³に増強～

平成24年6月11日

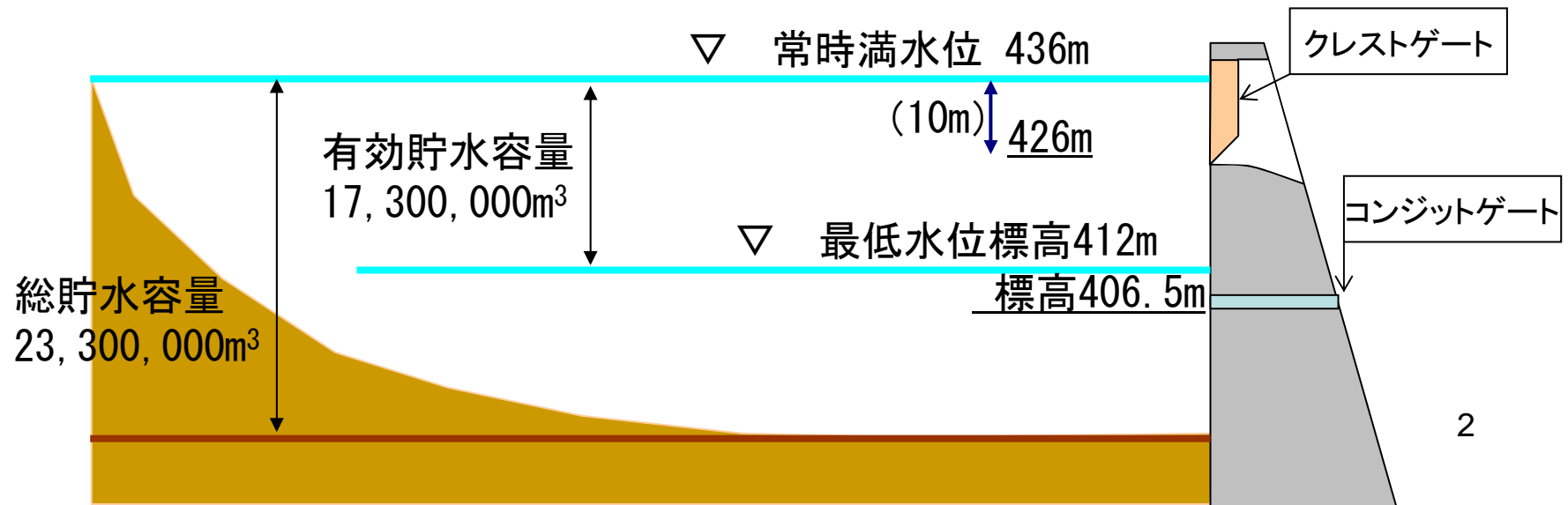
近畿地方整備局

紀の川ダム統合管理事務所

猿谷ダムの特徴

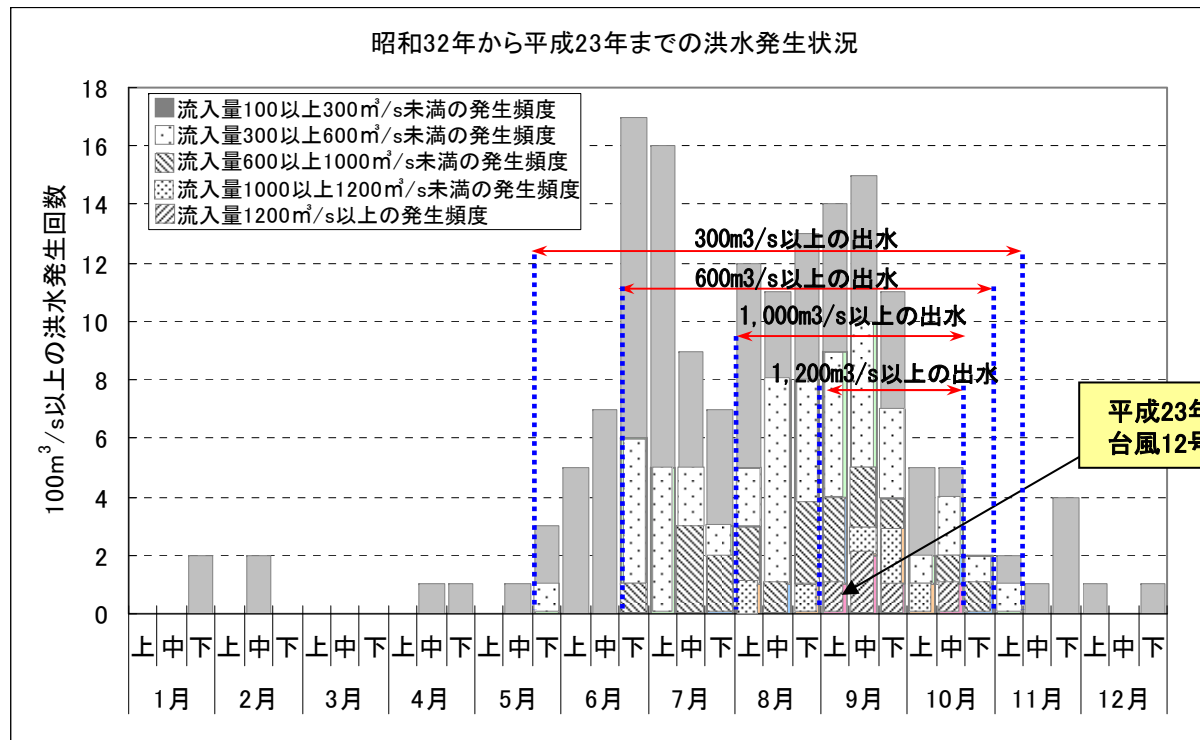
猿谷ダムには、コンジットゲートとクレストゲートの二つの放流設備がありますが、コンジットゲートは、最大で15m³/sの放流能力しかありません。

クレストゲートは、貯水位が標高426m以上のときに放流が可能となります。



これまでの洪水の発生状況

- ・ 猿谷ダムでは、昭和32年のダム完成後、流入量が洪水量 $1,000\text{m}^3/\text{s}$ ※を超える洪水が、11洪水あり、いずれも出水期（6/15～10/31）に発生しています。
- ・ その中でも、主要な洪水（ $1,200\text{m}^3/\text{s}$ 以上）は、すべて、9月上旬から10月中旬に発生しています。



昭和32年以降の洪水の発生状況

H24年度の新たな取り組み 試行運用

洪水前の空き容量の確保

■目的

洪水時の放流量を低減するため、空き容量を確保します。

■対象期間

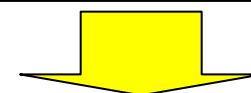
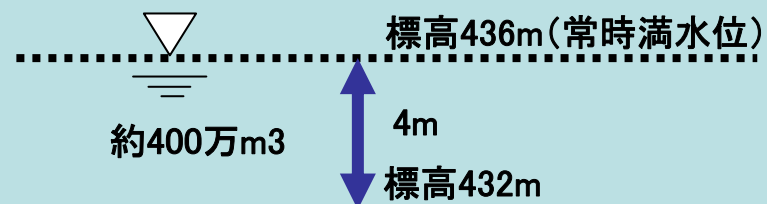
9/1～10/31

■方法及び効果

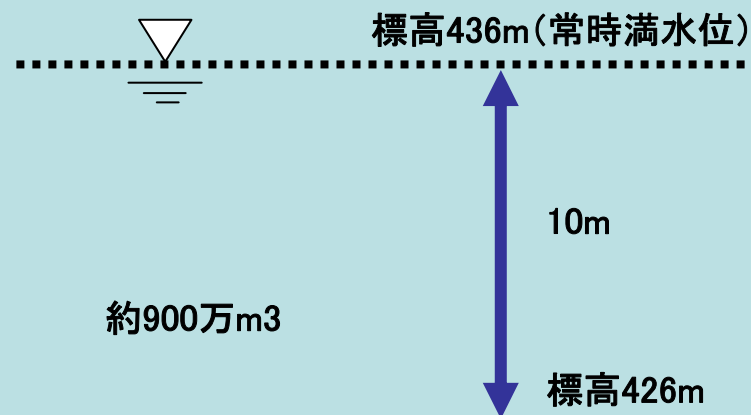
1,000m³/sを超える洪水が予想される場合、事前に標高426mを目標に貯水位を下げて運用します。

これにより、貯水位を10m、ダムの容量を約900万m³確保します。

これまで



H24年から



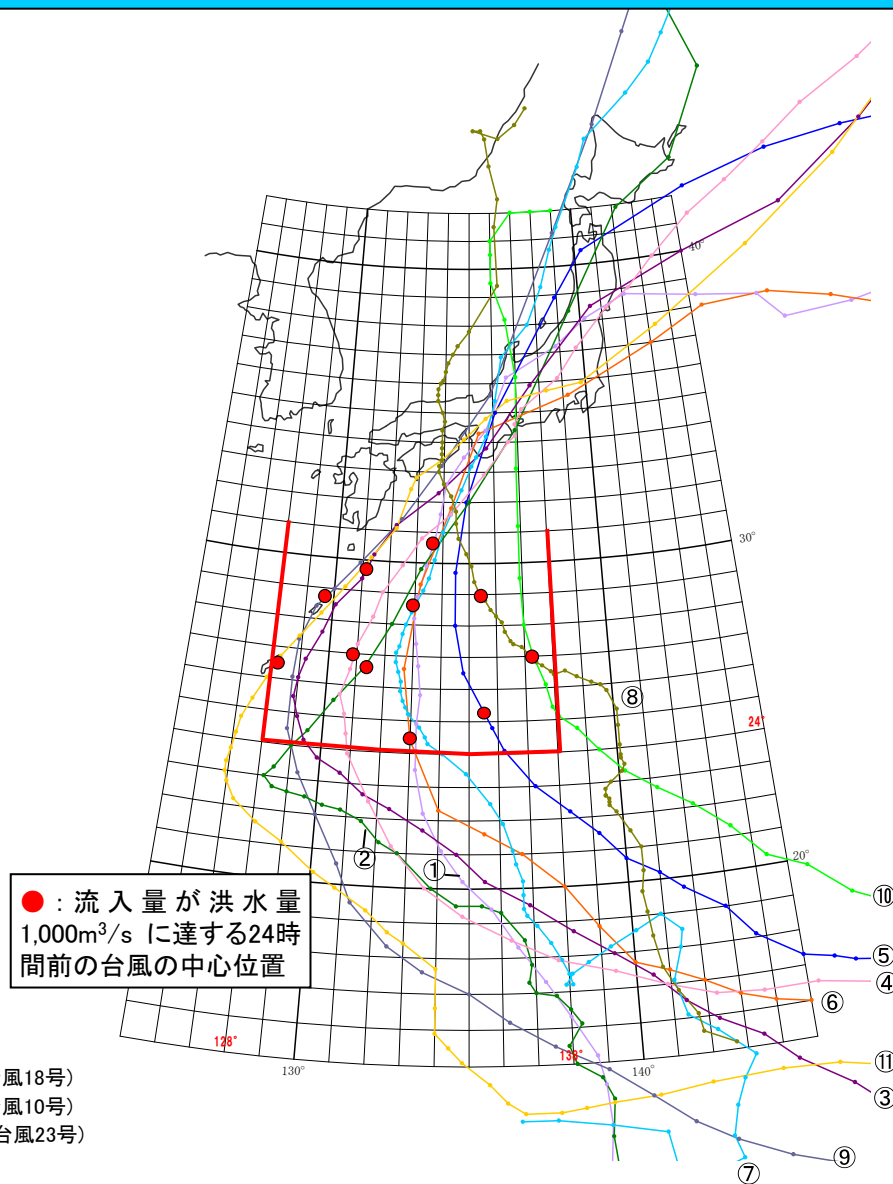
H24年度の新たな取り組み 試行運用

空き容量確保の実施基準

気象庁MSM数値予報モデルの予測雨量※と実績雨量による一連の雨量の9時間累積雨量が130mmを超え、かつ、台風が中心が、東経128度から138度の間で北緯24度以北に達し、さらに猿谷ダムに接近が予想されるときには、標高426mまでの空き容量を確保出来るよう、事前放流の実施などの対応を行います。

※気象庁の33時間先までの1時間毎、約5kmメッシュの予測雨量。初期値は6時間ごと。

- | | | |
|-------------------|------------------|-------------------|
| ① S33.8洪水(台風17号) | ⑤ S34.9洪水(伊勢湾台風) | ⑨ S36.9洪水(台風18号) |
| ② S40.9洪水(台風24号) | ⑥ S46.9洪水(台風29号) | ⑩ S57.8洪水(台風10号) |
| ③ H2.9洪水(台風19号) | ⑦ H6.9洪水(台風26号) | ⑪ H16.10洪水(台風23号) |
| ④ H21.10洪水(台風18号) | ⑧ H23.9洪水(台風12号) | |

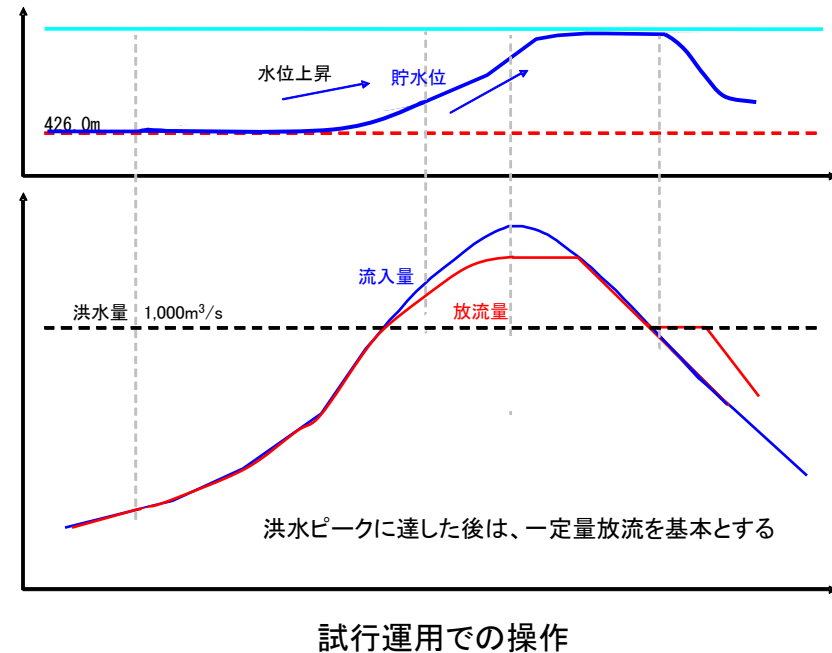


流入量が洪水量1,000m³/s以上の既往洪水での台風経路

H24年度の新たな取り組み 試行運用

放流量を低減する操作方法

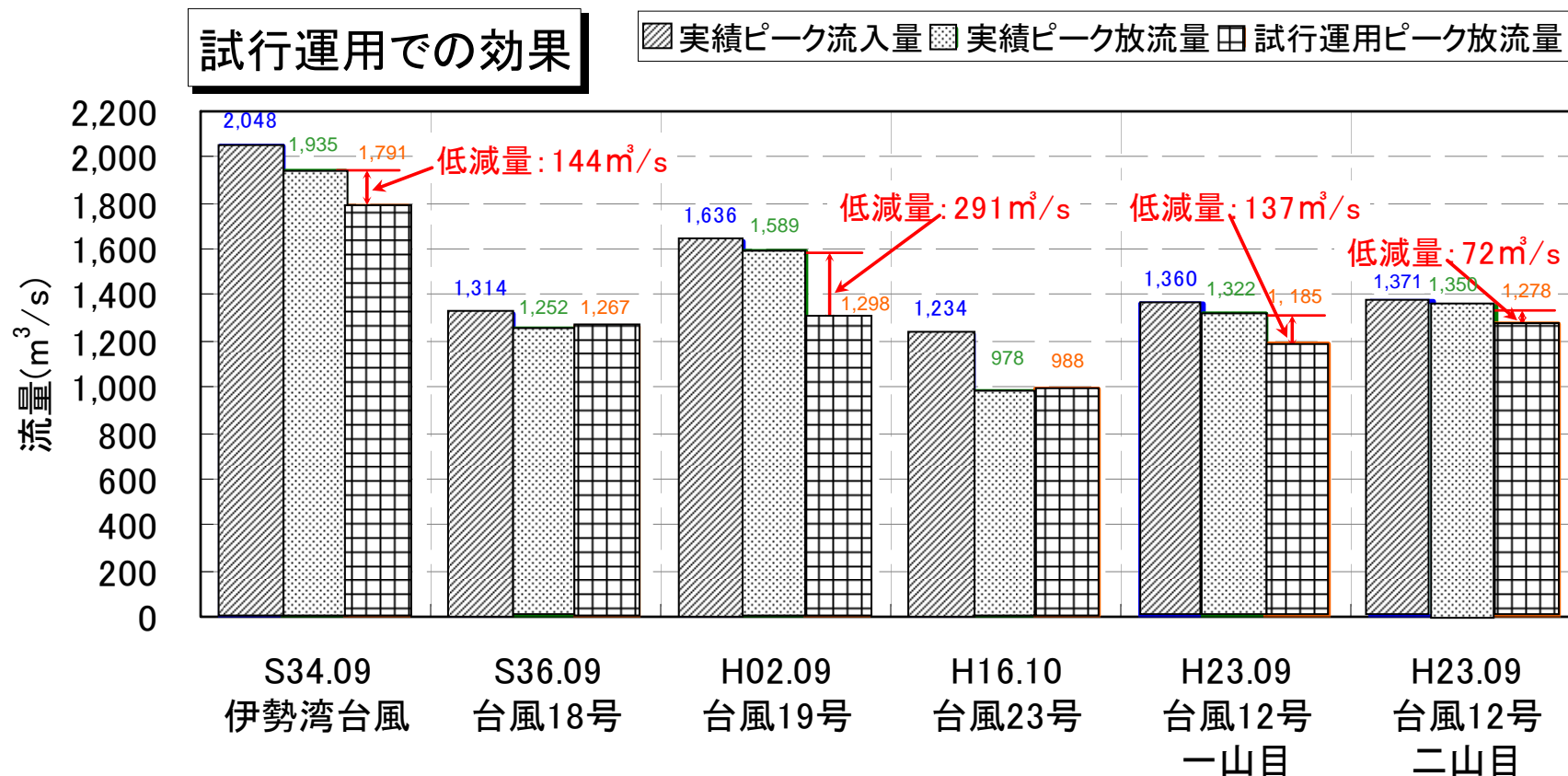
- 洪水時にはクレストゲート全開による自由越流（フリーフロー）により放流量の低減を行います。
- 全開放流後、流入量がピークに達した後は、残容量を確認の上、ピーク流入量時点の放流量による一定量放流を行います。



H24年度の新たな取り組み 試行運用

試行運用による最大放流量の低減効果

- ・ 試行運用により、昨年9月の台風12号洪水では、実績放流量と比較して、一山目で約140m³/s、二山目で約70m³/sの放流量が低減されると想定されます。
- ・ また、平成2年9月の台風19号洪水では、約290m³/sの放流量の低減が想定されます。

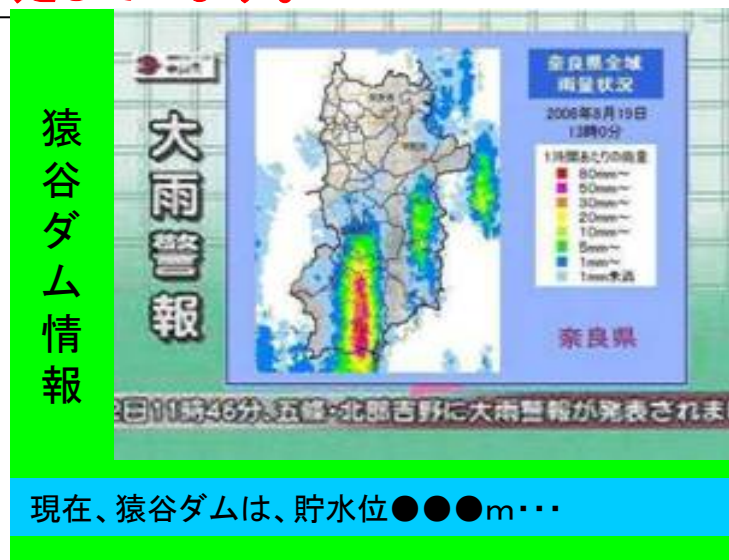


H24年度の新たな取り組み 情報発信

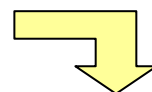
●猿谷ダムクレストゲート放流時にケーブルテレビを利用した情報発信

自治体放送(11CH)の画面に、猿谷ダムに関する文字情報を追加します。

猿谷ダムの情報提供時間は、クレストゲート放流時からクレストゲート放流終了までを予定しています。



青い帯の部分に文字情報を放送します



テロップ文(スクロール画面)

クレストゲート放流時からクレストゲート放流終了まで

現在、猿谷ダムは、貯水位●●●m、流入量●●m³/s、放流量●●m³/s、流域平均雨量●●mm、流域累加雨量●●mmです。

H24年度の新たな取り組み 情報発信

●猿谷ダムクレストゲート放流時に電光掲示板を利用した 情報発信

猿谷ダムに関する電光掲示板の設置を予定しています。

情報提供時間は、クレストゲート放流時からクレストゲート放流終了までを予定しています。



表示内容イメージ



上段

放流量増加中
放流量減少中

下段

300m³/s放流中

回転灯

●●●m³/s >  >  > ●●●m³/s
(流量は調整中)